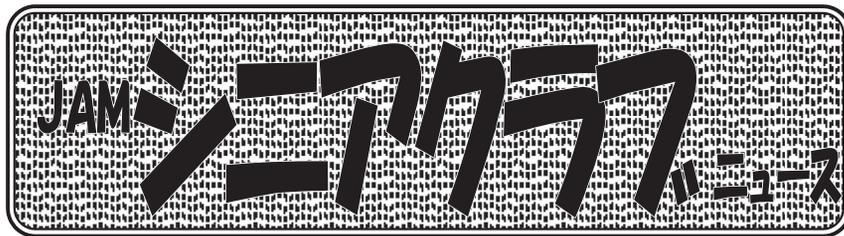


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第187号

発行日 2023年7月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

第3回幹事会

郡山玲（こおりや まりよう）氏の推 薦を決定



JAMシニアクラブは7月20日、東京友愛会館において開催した第3回幹事会において、2025年参院選比例代表・JAM組織内候補の郡山玲（こおりやまりよう）氏の推薦を決定しました。その後、郡山候補より推薦の御礼と2025年に向けた決意表明を受けました。当面は、各地方シニアクラブにおける推薦決定を速やかに行い、郡山候補の会員への周知活動に全力を傾注していきます。



退職者連合第27回定期 総会を開催

「今こそかけがえのない平和を未来を担う若者へつなごう」をスローガンに、7月19日、JAMシニアクラブが加盟する日本退職者連合の第27回定期総会が、東京・連合会館で開催されました。



JAMシニアの田中久弥代議員等を議長団に選出したあと主催者を代表して人見会長より、「岸田内閣の防衛政策を厳しくチェックし、平和と民主主義を守り戦争をさせない活動をしていく」との挨拶がありました。清水連合事務局長、立憲民主党泉代表、国民民主党玉木代表らの挨拶のあと、議事に入り2023年度運動方針、予算、政策制度要求、低所得高齢単身女性問題に関する政策制度要求、役員改選の議案が提案され、審議のあと満場一致で全議案が可決されました。

2023・24年度役員には、大山会長が副会長に、大野事務局長が幹事に再任をされ、早川副会長は副事務局長を退任しました。

代議員中87名中19名が女性、発言者4名中3名が女性代議員と、女性の活躍がいつになく目立った総会でした。JAMシニアからは大山会長、早川副会長、大野事務局長が役員として、平本事務局次長、田中事務局次長、河野幹事が代議員として出席しました。

主張



2008年に「地球の異変」という写真集が出ました。掲載された写真は見て衝撃的で、本当に目を疑うものばかりでした。アラスカ、シベリアに始まり、世界14か所の異常なまでに変化した地域の写真ばかりでした。今私たちが住んでいる地球が悲鳴をあげています。北極から南極にいたるまで、写真集のように地球全体に災害が発生しています。日本も例外ではありません。国立環境研究所の江守正多さんは、「日本では最近水害が増えています。2019年の19号台風は、その年の自然災害の中

で世界最大の被害額でした。温暖化していなければこれだけの被害は出ていない。日本は最大の温暖化の被害を受けている国の一つです」と報告しています。

地球の温暖化に対して 意識を変えよう

愛知シニアクラブ
会長 吉田 博

21歳の科学者で「火星に住むつもりです」の著者、村木風海さんは二酸化炭素を集められるマシンを発明、国の事業に採択されま

した。名称は、ひゃつレーで、ボタン一つで1年間に、100kgも二酸化炭素の回収が可能です。価格は月額42000円プラス税。トヨタグループのアイシンは排出二酸化炭素を集めて再利用。メタガスにしてエネルギー源として工場で実証しています。村木さんは「目指すは2030年に平均気温が1.5度を下回るように絶対的にしなくてはならない。1.5度を超すようなことになれば大変な事になってしまふ。」それは「地球がこれ以上温度が高くなるとドミノ倒しのように、一気に気候が崩れてしまつて後戻りできなくなるから」と警告しています。江守さんは、温暖化を決める切り札は「省

エネ。私たちに出来ることはどうやって一人一人がこの動きを応援していくかということだと思えます。」と述べ、村木さんは「いくら科学者が素晴らしい発見や発明をしても、みんな一人一人の意識が変わらなければ、本当に温暖化を解決することは出来ません」。一人の人間として、意識を変え、考え方を換え、私が、あなたがどう行動するかが、自分の周りの大切な大切なひとの生命を守り、未来につなげていくことが出来ます。2030年まで、あと6年ちよつとみんな頑張りなことを宣言しましょう。

「意識が変われば、温暖化を止めることが出来る」

京都 政策研修会を開催

伊藤忠男 通信員

JAM京都シニアクラブは、6月8日午後、京都労働者総合会館において題記「政策研修会」を開催し、「介護保険制度」について「あきらめない」ためにできることを探る。と題し、講師に特定NPO法人「あつたかさポート」の社労士椎名みゆきさんをお招き、各退職者



組織から41名が参加して開催しました。

研修会の概要は現在の介護保険制度の仕組みや問題点を解説いただいたうえで、2024年からの介護保険第9期計画を策定するにあたって財務省や厚生労働省が課題として挙げている、介護サービス利用料の負担割合拡大や要介護一、二を介護保険の対象外とする等

の「介護保険利用をあきらめざるを得ないような」制度改悪の目論見を解説して頂きました。

研修の締めくくりとして講師から当事者たる高齢者が、制度の内容をよく理解し、政府が画策する改悪を防ぎ介護保険給付の国庫負担割合を増やさせる社会運動や、自治体や政府に対する要請活動を展開することが重要と訴えかけられた。

講師のお話のあと受講者から「私たち高齢者は当然として、現役労働組合も巻き込んだ運動を」「地域の社会福祉協議会に関わっているが介護人材の不足は地域でも問題になっている。我々元気な高齢者が介護人材の一翼を担うこともできるのではないか」などの意見が出されました。

千葉 ゴルフ交流会を開催

田中久弥 事務局長

JAM千葉シニアクラブは、結成以来年2回（春秋）のゴルフ交流会を開催しており、今年も春季ゴルフ交流会として、6月5日（月）茂原市にある真名カントリークラブ真名コースで参加者28名にて開催しました。

当日は天候にも恵まれ、初夏を想わせる陽気の中、日頃の練習の成果を発揮しよ



うと熱戦が繰り広げられました。競技は新ペリア方式で行われた結果、不二サッシュユニオン出身の菊地一郎さんがネット70・4と唯一のアンダーパーで見事優勝を飾りました。

競技終了後の表彰式は、昨年秋までコロナ感染対策としてパーティー無しで行ってききましたが、今回はパーティー形式での表彰式となり、多くの飛賞やニアピン・ドラコンなどの発表に一喜一憂し、久しぶりに盛り上がった交流会となりました。

JAMシニアクラブ
会長 大山 勝也

来年秋の「健康保険証」廃止に関する申し入れ

日本退職者連合
会長 人見 一夫 殿

日頃のご指導に心より感謝申し上げます。

今次通常国会で成立した改正マイナンバー法により、来年秋より保険証の廃止とマイナンバーカードへの一本化が実施されます。この切り替へはデジタル化に不慣れな高齢者や600万人を超える認知症患者に不安や混乱を引き起こし、医療の根幹に関わる大きな問題となりかねません。

また、マイナンバーカードに関するトラブルが多発し、各種世論調査においてマイナンバーカードの活用拡大に不安を感じる人が7割を超えている状況の中で、来年秋の切り替えに国民の理解と協力が得られるのか大いに疑問です。拙速を避け、今一度マイナンバーカードへの一本化が本当に必要なか腰を据えて議論すべきだと考えます。

日本退職者連合の2023年度政策制度要求案における「マイナンバーカードの取得は本人の選択に基づくと原則を順守し、健康保険証をマイナンバーカードに置き換えないこと」という方針に沿って、来年秋からの健康保険証廃止、マイナンバーカードへの一元化を撤回させる行動を退職者連合一丸となって取り組むことを要請いたします。

以上

2024年秋からの健康保険証廃止の撤回を！ 退職者連合に要請書を提出

本年6月改正マイナンバー法が成立し、2024年秋からの既存の健康保険証廃止、マイナンバーカード保険証への一元化が決定しました。「マイナンバーカードの取得は本人の選択に基づくと」という原則を逸脱し、マイナンバーカードへの一元化を強引な手法に批判が高まっています。また、その後マイナンバーカードのトラブルが頻発し、多くの



JAM長野シニアクラブの皆さんが、この事態を深刻に受け止め、来年秋から

国民に不安と不信を与えていることは、各種世論調査の結果を見ても明らかです。

の健康保険証廃止を撤回させる取り組みを本部に要請してきました。これを受けて7月4日の三役会議で協議の結果、日本退職者連合にJAMシニアクラブとして要請書を提出することになりました。7月6日、大山会長と大野事務局長が退職者連合事務所を訪ね、野田事務局長に要請書を提出しました。その後退職者連合は「2024年秋に予定される健康保険証廃止の撤回を求める」団体署名を展開し、政府に請願する活動を行うことを決定しています。